

第57回「京の冬の旅」

(1) 非公開文化財特別公開 ～秘められた京の美をたずねて～

国宝・重要文化財など、多くの歴史的な文化財が残る京都でも、通常公開されているのはその一部であるといわれています。普段は見学できない貴重な文化財を特別公開する**第57回「京の冬の旅」**非公開文化財特別公開のテーマは大きく3つ。

1つは**大河ドラマ「どうする家康」**放映にちなみ、徳川家康や同時代を生きた戦国武将ゆかりの寺院。また令和5年(2023)の**「親鸞聖人御誕生850年」**および**「立教開宗800年」**慶讃法要、同年の**「弘法大師御誕生1250年」**および**「真言宗立教開宗1200年」**にちなんで、各本山寺院に残る仏教美術やその文化にスポットをあて、庭園、襖絵や仏像など貴重な文化財の数々を期間限定で特別公開します。

■公開期間 2023年1月7日(土)～3月19日(日)・72日間

- *知恩院 大方丈・小方丈・方丈庭園：1月20日(金)～の公開となります。
- *清水寺 成就院：2月1日(水)～の公開となります。また2月22日(水)・23日(木・祝)は拝観休止
- *大徳寺 三玄院：1月16日(月)～3月13日(月)の公開となります。また1月27日(金)・28日(土)、3月7日(火)～9日(木)は拝観休止
- *大徳寺 総見院：1月23日(月)～3月17日(金)の公開となります。
- *大徳寺 芳春院：1月28日(土)は拝観休止
- *上徳寺：2月8日(水)は拝観休止
- *妙心寺 玉鳳院：1月11日(水)、2月11日(土)、3月11日(土)は14:30(14:00受付終了)までの公開。2月7日(火)は12:00～の公開。
- *妙心寺 壽聖院：毎週木曜は13:30(13:00受付終了)までの公開。
- *東本願寺 大寝殿・白書院：3月16日(木)までの公開となります。
- *醍醐寺 三宝院：弥勒堂のみ、法要等のため30分程度拝観できない場合があります
- *醍醐寺 理性院：3月18日(土)までの公開となります。1月13日(金)～16日(月)、2月19日(日)は拝観休止
- *僧侶がご案内する特別拝観 西本願寺 書院：期間中の限定設定日(設定日は後日お知らせいたします)
- *僧侶がご案内する特別拝観 東本願寺 諸殿：期間中の限定設定日(設定日は後日お知らせいたします)
- *そのほか法要等、都合により拝観できない日が生じる場合がございますので、事前に京都市観光協会へご確認下さい。

■公開時間 10:00～16:30(16:00受付終了)

- *知恩院 大方丈・小方丈・方丈庭園は、10:00～16:20(15:40受付終了)
- *仁和寺 御殿・庭園は、1・2月：9:00～16:30(16:00受付終了)、3月：9:00～17:00(16:30受付終了)
- *東本願寺 大寝殿・白書院は、1・2月：10:00～16:00(15:30受付終了)、3月：10:00～16:30(16:00受付終了)
- *東寺 五重塔は、8:30～17:00(16:30受付終了)
- *醍醐寺 三宝院は、1・2月：9:00～16:30(16:00受付終了)、3月：9:00～17:00(16:30受付終了)
- *僧侶がご案内する特別拝観 西本願寺 書院は、10:00～/11:00～/13:30～/15:00～(1日4回)各所要約60～70分(定員あり)※日によって実施しない時間帯あり
- *僧侶がご案内する特別拝観 東本願寺 諸殿は、1日数回の設定時間ごとの実施(予定) 各所要約60分(定員あり)※日によって実施しない時間帯あり

■料金 1ヶ所 大人(中学生以上)800円/小学生400円(15名以上の団体は1割引)

- *清水寺 成就院：大人(高校生以上)600円/小中学生300円 団体割引なし
- *仁和寺 御殿・庭園：大人(大学生以上)1,000円/高校生以下 無料(通常公開部分を含む)で、15名以上の団体は大人のみ900円
- *東寺 五重塔：大人(大学生以上)800円/高校生700円/小中学生500円(通常公開部分を含む)で、30名以上の団体は1割引。
- *醍醐寺 三宝院：大人(中学生以上)800円/小学生無料 団体割引なし ※別途「三宝院庭園・伽藍エリア 2ヶ所」通常拝観料要(大人1,000円/中高生700円/小学生無料、団体20名以上は大人800円/中高生600円 ※但し2月23日は行事のため通常拝観料なしで拝観可)
- *僧侶がご案内する特別拝観 西本願寺 書院：小学生以上 1名当り2,500円 団体割引なし
- *僧侶がご案内する特別拝観 東本願寺 諸殿：小学生以上 1名当り2,000円 団体割引なし

■拝観方法 【団体拝観】団体(15名以上)での拝観は、混雑緩和のため予約をお願いします。旅行社様へは先行して予約サイトを2022年10月初め頃より公開予定

【個人拝観】ご希望の時間帯に確実に拝観されたい方は、インターネットでの事前予約をおすすめします。但し、「僧侶がご案内する特別拝観 西本願寺 書院」と「僧侶がご案内する特別拝観 東本願寺 諸殿」は「完全予約制」です。

予約開始は2022年1月下旬～12月初旬頃の予定 京都観光 Navi ホームページ [京の冬の旅 検索](#)

ご拝観前に必ずお読みください：・ご拝観の際にはマスクの着用をお願いします。・体調不良もしくは37.5度以上の熱がある場合は、ご拝観をご遠慮くださいますようお願いいたします。・拝観前にアルコールにて手消毒をお願いします。・拝観に際しては係員の案内に従っていただきますようお願いいたします。・プラスチックゴミ削減のため靴袋の持参をお願いしています。

◇団体予約等のお問い合わせは、公益社団法人京都市観光協会 誘致事業課(平日9:00～17:00) TEL. 075-213-0020(直通) FAX. 075-213-1011
※2022年12月初旬頃～開通予定 「京の冬の旅」コールセンター：TEL075-585-5181(9:00～17:00)

洛東エリア

公開箇所	所在地	見どころ	J R最寄駅からの交通アクセス	大型バス駐車場
ち おんいん おおほうじょう 知恩院 大方丈・ こほうじょう ほうじょうていえん 小方丈・方丈庭園	東山区林下町 400	徳川家康の永代菩提所 大方丈（重文）／「鶴の間」「上段の間」「菊の間」の金碧障壁画、小方丈（重文）／水墨障壁画、方丈庭園（名勝）、権現堂	●J R「山科」駅から地下鉄東西線「東山」駅下車、徒歩約10分 ●京都駅から市バス206系統「知恩院前」下車、徒歩約10分	知恩院⑩
きよみずでら じょうじゆいん 清水寺 成就院	東山区清水1丁目	「京の冬の旅」5年ぶりの公開 「花の庭」再興記念！「雪月花の三庭苑」の一つに数えられた名庭「月の庭」（名勝）	●J R奈良線「東福寺」駅から京阪電車「清水五条」駅下車、徒歩約25分 ●京都駅から市バス86・206系統「五条坂」下車、徒歩約12分	京都市清水坂観光⑩

洛北・洛中エリア

公開箇所	所在地	見どころ	J R最寄駅からの交通アクセス	大型バス駐車場
だいとくじ さんげんいん 大徳寺 三玄院	北区紫野大徳寺町 76	「京の冬の旅」初公開 浅野幸長、石田三成、森忠政の三武将や黒田長政、古田織部などの武将ゆかりの寺 方丈／原在中筆の襖絵「八方睨みの虎」 枯山水庭園「昨雲庭」	●J R嵯峨野線「二条」駅から市バス206系統「大徳寺前」下車、徒歩約7分 ●京都駅から地下鉄烏丸線「北大路」駅下車（乗換）、市バス204・205・206系統「大徳寺前」下車、徒歩約7分	大徳寺⑩
だいとくじ そうけんいん 大徳寺 総見院	北区紫野大徳寺町 59	織田信長の菩提寺 織田信長坐像（重文）、織田信長一族の墓、茶室、秀吉遺愛の胡蝶侘助、加藤清正ゆかりの「掘り抜き井戸」	●J R嵯峨野線「二条」駅から市バス206系統「大徳寺前」下車、徒歩約8分 ●京都駅から地下鉄烏丸線「北大路」駅下車（乗換）、市バス204・205・206系統「大徳寺前」下車、徒歩約8分	大徳寺⑩
だいとくじ ほうしゅんいん 大徳寺 芳春院	北区紫野大徳寺町 55	「京の冬の旅」7年ぶりの公開 加賀藩主・前田家の菩提寺 本堂／芳春院像、枯山水庭園「花岸庭」、京の四閣の一つ・「呑湖閣」と楼閣山水庭園	●J R嵯峨野線「二条」駅から市バス206系統「大徳寺前」下車、徒歩約10分 ●京都駅から地下鉄烏丸線「北大路」駅下車（乗換）、市バス204・205・206系統「大徳寺前」下車、徒歩約10分	大徳寺⑩
じょうとくじ 上徳寺	下京区富小路通五条下ル本塩竈町 556	「京の冬の旅」初公開 徳川家康と側室・阿茶局ゆかりの寺 通称「世継地蔵」 家康・秀忠と阿茶局の肖像画、地蔵菩薩像、聖護院から移築の客殿	●J R奈良線「東福寺」駅から京阪電車「清水五条」駅下車、徒歩約7分 ●京都駅から市バス4・17・205系統「河原町五条」下車、徒歩約5分	五条通にて路上乗降

洛西エリア

公開箇所	所在地	見どころ	J R最寄駅からの交通アクセス	大型バス駐車場
みょうしんじ ぎよくほういん 妙心寺 玉鳳院	右京区花園妙心寺町 60	開山堂（重文）、方丈／伝狩野永真・洞雲筆の障壁画、枯山水庭園（史跡・名勝）、武田信玄・勝頼の石塔、織田信長・信忠の石塔	●J R嵯峨野線「花園」駅下車、徒歩約5分 ●京都駅から市バス26系統「妙心寺北門前」下車、徒歩約7分	妙心寺⑩
みょうしんじ じゅしょういん 妙心寺 壽聖院	右京区花園妙心寺町 44	「京の冬の旅」初公開 石田三成一族の菩提寺 伝狩野永徳設計の庭園、石田三成一族供養塔、石田三成肖像画（模本）、石田正継肖像画（複製）等寺宝展示	●J R嵯峨野線「花園」駅下車、徒歩約8分 ●京都駅から市バス26系統「妙心寺北門前」下車、徒歩約3分	妙心寺⑩
にんなじ ごてん ていえん 仁和寺 御殿・庭園	右京区御室大内 33	世界文化遺産 七代目小川治兵衛作の「北庭」、白砂敷きの「南庭」からなる庭園（名勝）を特別回遊ルートで拝観、「宸殿」「白書院」（いずれも国登録有形文化財）など御殿内の豪華な障壁画 寺宝展示	●京都駅からJ R嵯峨野線「太秦」駅で嵐電乗換、「撮影所前」駅から「御室仁和寺」駅下車、徒歩約3分 ●京都駅またはJ R嵯峨野線「円町」駅から市バス26系統またはJ Rバス「御室仁和寺」下車、徒歩すぐ	仁和寺⑩

京都駅付近 エリア

公開箇所	所在地	見どころ	J R最寄駅からの交通アクセス	大型バス駐車場
ひがしほんがんじ 東本願寺 おおしんでん しろしよいん 大寝殿・白書院	下京区烏丸通七条上ル	「京の冬の旅」40年ぶりの公開 大寝殿（国登録有形文化財）／竹内栖鳳筆の障壁画、白書院／「上段の間」花鳥図様の障壁画	●京都駅から徒歩約7分、 ●京都駅から地下鉄烏丸線「五条」駅下車、徒歩約5分	烏丸通にて路上乗降
とうじ ごじゅうのとう 東寺 五重塔	南区九条町1番地	世界文化遺産 五重塔（国宝）初層内部公開、金堂（国宝）／薬師三尊像（重文）、講堂（重文）／21体の立体曼荼羅	●京都駅から徒歩約15分 ●京都駅から市バス205系統「東寺道」下車、徒歩約5分	東寺⑩

山科・醍醐エリア

公開箇所	所在地	見どころ	J R最寄駅からの交通アクセス	大型バス駐車場
------	-----	------	-----------------	---------

だいごじ さんぼういん 醍醐寺 三宝院	伏見区醍醐東大路町 22	世界文化遺産 表書院（国宝）の華麗な障壁画、豊臣秀吉設計の庭園（特別名勝・特別史跡）、弥勒堂（重文） 内陣まで入っての特別拝観／快慶作の弥勒菩薩坐像、純浄観（重文）／浜田泰介筆の襖絵、奥宸 殿（重文）／「醍醐棚」、寺宝特別展示	●JR「山科」駅から地下鉄東西線「醍醐」駅下車、②番 出口より徒歩約10分 ●京都駅八条口（ホテル京阪前）から京阪バス「京都醍醐 寺ライン」で「醍醐寺」下車、徒歩すぐ	醍醐寺 ^①
だいごじ りしやういん 醍醐寺 理性院	伏見区醍醐東大路町 21	「京の冬の旅」初公開 本堂／本堂脇侍「不動明王坐像」（重文）、毘沙門天立像 客殿／狩野探幽筆「水墨山水図」	●JR「山科」駅から地下鉄東西線「醍醐」駅下車、②番 出口より徒歩約15分 ●京都駅八条口（ホテル京阪前）から京阪バス「京都醍醐 寺ライン」で「醍醐寺」下車、徒歩約5分	醍醐寺 ^①

★僧侶がご案内する特別拝観

公開箇所	所在地	見どころ	JR最寄駅からの交通アクセス	大型バス駐車場
僧侶がご案内する特別拝観 ひがしほんがんじ しよでん 東本願寺 諸殿	下京区烏丸通七条上ル	僧侶のご案内で、近代和風建築を代表する「諸殿」を拝観 御影堂（重文）、阿弥陀堂（重文）、大寝殿（国登録有形文化財）／竹内栖鳳筆の障壁画、白書 院 ほか	●京都駅から徒歩約7分、 ●京都駅から地下鉄烏丸線「五条」駅下車、徒歩約5分	烏丸通にて路上 乗降
僧侶がご案内する特別拝観 にしほんがんじ しよいん 西本願寺 書院	下京区堀川通花屋町下 ル本願寺門前町	世界文化遺産 僧侶のご案内で、華麗なる桃山文化の粋を一挙に拝観！ 御影堂（国宝）、阿弥陀堂（国宝）、書院（国宝）／虎の間、南能舞台、鴻の間、雀の間、雁の間、 菊の間、白書院、北能舞台、東狭屋の間、虎溪の庭	●京都駅から市バス9・28・75系統「西本願寺前」下 車、徒歩すぐ ●京都駅八条口から京阪バス311・312系統「西本願 寺前」で下車	西本願寺北境内 地 ^①

★京の冬の旅スタンプラリー “ちょっと一服”

上記の非公開文化財特別公開の中から好きな3ヶ所を拝観してスタンプをもらうと、指定の場所で“ちょっと一服”（お茶とお菓子など）の特典が受けられるスタンプラリーを実施します。
 （“ちょっと一服”の接待箇所は未定です。）

◇設定期間 2023年1月7日（土）～3月19日（日）

◇参加方法 ①JR京都駅ビルにある京都総合観光案内所〈京なび〉などで配布するスタンプラリー用紙を持って、特別公開箇所を拝観する。

②それぞれの拝観受付にて拝観料支払時にスタンプをもらい、スタンプが3個そろえば、指定の場所（茶店など）で“ちょっと一服”の接待が受けられます。

***なお、定期観光バス及び団体（15名様以上）でのご利用はできません。個人でのご利用に限ります。**

非公開文化財特別公開 対象箇所 および 定期観光バス下車案内箇所 ご紹介

<p>ち おんいん 知恩院</p> <p>おおほうじょう 大方丈・</p> <p>こほうじょう 小方丈・</p> <p>ほうじょうていえん 方丈庭園</p>	<p>～徳川家の永代菩提所 将軍の座所として使われた豪壮な建築～</p> <p>浄土宗総本山知恩院は、承安5年（1175）に法然上人が結んだ草庵に始まる。江戸幕府初代将軍・徳川家康が浄土教信者で、ここを永代菩提所としたことから将軍家とのゆかりが深く、広大な敷地に現存する大伽藍の多くが徳川家によって造営された。</p> <p>豪壮華麗な佇まいを残す大方丈（重文）は寛永18年（1641）三代将軍家光が建立したものの、「知恩院の七不思議」の一つ「鶯張りの廊下」が続き、二条城と同様の書院造の形式を備えた将軍の座所として用いられた。武者隠しのある「上段の間」や「鶴の間」、「抜け雀」の襖絵で知られる「菊の間」など、狩野尚信、信政などの狩野派の絵師が手がけたという金碧障壁画で飾られている。大方丈の北東に位置する小方丈（重文）も同時期に建てられたもので、水墨画で飾られた「上段の間」「雪中山水の間」「蘭亭の間」などがある。</p> <p>また2021年に国の名勝に指定された方丈庭園は玉淵の作庭と伝わり、東山山麓の地形を活かして、瓢箪形の池を中心に石組と刈込を配した美しい庭園である。家康・秀忠・家光の三代の位牌と肖像画を祀る権現堂も拝観できる。</p>	<p>だいとくじ 大徳寺</p> <p>さんげんいん 三玄院</p> <p>「京の冬の旅」初公開</p>	<p>～多くの武将や貴人が参禅した 石田三成・古田織部の菩提寺～</p> <p>天正17年（1589）、浅野幸長、石田三成、森忠政の三武将が、大徳寺第111世・春屋宗園和尚（大宝円鑑国師）を開祖として創建した大徳寺の塔頭寺院。書家としても知られた公卿・近衛信尹や、黒田長政、古田織部、上田宗箇、小堀遠州などの武将、また千利休の孫・千宗旦や藪内劍仲、絵師・長谷川等伯など、茶人や絵師も含めて多くの人々が春屋和尚に禅を学んだ。</p> <p>方丈（本堂）には、御所や公家の御用を勤めた江戸時代の絵師・原在中が、各室ごとに四季の花鳥や山水を異なった技法を用いて描いた襖絵が残る。</p> <p>とくに仏法を護る龍虎を描いた室中の間は、墨のにじみの効果を利用した「たらしこみ」による表現で龍を描き、またどこから見ても視線の合うように描かれた「八方睨みの虎」が秀逸な作品である。</p> <p>方丈前の「昨雲庭」は、植込みと大きな立石で深山から流れ出す滝を表し、苔や名石の島を配した白砂で広がる大海を表現した枯山水庭園。大徳寺の法堂や松を取り込んだ借景が印象的な庭園である。</p> <p>※茶室「篁庵」は公開されません。</p>
<p>きよみずでら 清水寺</p> <p>じょうじゆいん 成就院</p> <p>「京の冬の旅」5年ぶりの公開</p>	<p>～「雪月花の三庭苑」の一つ 名勝「月の庭」～</p> <p>「清水の舞台」で知られる世界文化遺産・清水寺の塔頭寺院で、室町時代の創建。幕末の勤王僧として知られた月照上人とその実弟・信海上人が住職を務めたことでも知られ、ここで西郷隆盛や近衛忠熙らと密談したとも伝えられる。</p> <p>江戸時代初期を代表する庭園「月の庭」（名勝）は、幽玄な月光に照らされた庭の美しさを称えられ、古来より「雪月花の三庭苑※」の一つに数えられた名庭である。室町期の相阿弥が原作をつくり茶人・小堀遠州が補修したものとも、また江戸期の俳人・松永貞徳の作とも伝えられている。東山三十六峰のひとつ・高台寺山を借景とした池泉観賞式庭園で、豊臣秀吉寄進の「誰が袖手水鉢」や「烏帽子石」などの名石、石灯笼が巧みに配置され、見事な庭園美を構成している。</p> <p>【雪月花の三庭苑】「花の庭」再興記念！</p> <p>江戸時代、妙満寺に雪の風情を愛でる「雪の庭」、清水寺に東山の月を観る「月の庭」、北野に梅花を鑑賞する「花の庭」があり、「雪月花の三庭苑」として名を馳せたという。そのうち明治期に失われた「花の庭」が、2022年1月、およそ150年ぶりに北野天満宮で再興され、日本人の愛した自然の美を体現する三庭苑がそろった。清水寺成就院の「京の冬の旅」特別公開により「雪」「月」「花」の三庭を同時期に鑑賞できることに！</p>	<p>だいとくじ 大徳寺</p> <p>そうけんいん 総見院</p>	<p>～戦国の覇者・織田信長の菩提寺～</p> <p>天正11年（1583）豊臣秀吉が織田信長の菩提を弔うため、千利休の師にあたる古溪宗陳和尚を開祖として建立した大徳寺の塔頭寺院。境内には信長のほか、息子の信忠、信雄など織田一族の墓が並ぶ。</p> <p>本堂に安置されている「織田信長坐像」（重文）は信長の一周忌法要に合わせて香木（沈香）で作られたもの。運慶・湛慶の流れを汲む仏師・康清の作とされ、高さ約115cmの衣冠帯刀の姿で、眼光鋭い表情が印象的である。</p> <p>境内には、大正時代初期に山口玄洞が建立した「寿安席」、表千家の即中斎好みの「香雲軒」、而妙斎揮毫による扁額を掲げた「龐庵」の趣の異なる三つの茶室が建っている。また加藤清正が朝鮮から持ち帰った石を井筒とした「掘り抜き井戸」や、秀吉が千利休から譲り受けたという樹齢400年の日本最古の「胡蝶侘助椿」の木も残っている。</p>
<p>じょうとくじ 上徳寺</p> <p>「京の冬の旅」初公開</p>	<p>～「世継地蔵」で知られる家康ゆかりの寺～</p> <p>慶長8年（1603）、徳川家康によって、側室・阿茶局が開基となり創建されたと伝わる浄土宗の寺院。才知に長けた阿茶局は「小牧・長久手の戦い」ほか諸戦に随行し、大坂冬の陣では大坂城に入って和睦の使者を務めたほどの、家康の信頼厚い側室であったと伝えられ、寺名は阿茶局の法名「上徳院殿」にちなんで付けられた。</p> <p>地蔵堂に祀られた像高約2mの石造の地蔵菩薩立像が「子授け祈願・安産祈願」の信仰を集め「世継が授かる」と言われることから「世継地蔵」の通称でも知られており、今回は地蔵堂の内部に入って間近で参拝することができる。</p> <p>本堂は、宝暦3年（1753）建立の永観堂の祖師堂を移築したもので、極彩色の残る柱などが荘厳で美しい。今回は、徳川家康とその息子の二代将軍・秀忠、阿茶局の肖像画など、寺宝も特別展示される。</p> <p>また客殿は書院造で、紅葉などを描いた狩野派の襖絵で飾られており、客殿前には枯山水庭園が望める。</p>	<p>だいとくじ 大徳寺</p> <p>ほうしゆいん 芳春院</p> <p>「京の冬の旅」7年ぶりの公開</p>	<p>～前田家の菩提寺に残る優美な楼閣建築～</p> <p>大徳寺の塔頭寺院で、慶長13年（1608）、加賀藩主・前田利家の正室・まつが創建した前田家の菩提寺。まつが法号から「芳春院」の寺名がつけられている。</p> <p>本堂には本尊・釈迦如来像や開祖・玉室宗珀の木像が安置され、芳春院（まつ）の木像や前田家歴代の御霊牌が祀られている。本堂前庭は「花岸庭」と名付けられた白砂が広がる枯山水庭園で、山溪より流れ出る水が湖に注ぎ、大海に帰する山水の様を表している。</p> <p>裏庭に建つ「呑湖閣」は、利家の子・利長が、茶人や造園でも知られた武将・小堀遠州に依頼して建てたといわれる優美な二重楼閣。閣上から比叡山を東に望み、その向こうに広がる琵琶湖の水を呑み干すという意を込めて名付けられた。金閣（金閣寺）・銀閣（銀閣寺）・飛雲閣（西本願寺）と並んで「京の四閣」とも称される（内部は非公開）。呑湖閣前には「飽雲池」と呼ばれる池が広がり、そこに架かる「打月橋」とともに見事な楼閣山水庭園となっている。呑湖閣には、前田家の先祖とされる菅原道真を祀るほか、玉室和尚の師・春屋宗園の木像や檀越である近衛家の位牌などを安置している。</p>

<p>仁和寺 御殿・庭園</p>	<p>～冬は御殿庭園が特別ルートで回遊式に！～</p> <p>真言宗御室派総本山で世界文化遺産。仁和4年（888）、宇多天皇が造営し、「御室御所」とも呼ばれ格式を誇った名刹である。明治維新まで1000年にわたり代々皇室から住職を迎えた門跡寺院で、広大な境内には御所から移築された建物も多い。</p> <p>特に「御殿」と呼ばれる「宸殿」「白書院」などの建物群は、それぞれが回廊で結ばれ、御所に似た風情を漂わせている（いずれも国登録有形文化財）。大正3年再建の「宸殿」は紫宸殿にならった檜皮葺の建物で、「桜花」「葵祭之図」など、四季の花鳥を描いた日本画家・原在泉の襖絵で飾られている。</p> <p>「京の冬の旅」期間中、通常は御殿建物内からのみ観賞できる「仁和寺御所庭園」（名勝）に下りて特別に回遊式で拝観できる。白砂に「左近の桜」「右近の橘」が植えられた宸殿「南庭」では、皇族方が来られた際のみ通られる白砂敷き部分からの眺めをお楽しみ頂く。また大正期に名造園家・七代目小川治兵衛によって整えられた池泉式の「北庭」も、通常と違ったルートから拝観できる。</p>	<p>東寺 五重塔</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大状況の推移や社会情勢などにより、事業の中止や内容が変更される場合があります。</p> <p>～真言宗の始まりから1200年 日本一高い国宝五重塔～</p> <p>真言宗の総本山で、正しくは教王護国寺といい、世界文化遺産。平安京造営の際、国家鎮護のために創建された寺院であった。弘仁14年（823年）に嵯峨天皇が弘法大師空海にこの寺を下賜され、それをもって真言宗が「立教・開宗」されてから、2023年で1200年の節目を迎える。空海のもたらした密教の造形物は、美術品としても極めて高い質を誇り、その多彩さや豊かさは日本の仏教美術の中で群を抜いていることから密教美術の宝庫とされる。</p> <p>東寺の象徴でありまた京都の象徴ともいうべき五重塔（国宝）は、高さ約55mで、木造の塔としては日本一の高さを誇る。4度焼失したがその度に古来の工法で再建され、現在の塔は寛永21年（1644）徳川三代将軍家光の再建によるもの。特別公開の初層内部は、極彩色の文様で埋め尽くされ、密教の根本仏・大日如来に見立てた心柱を守るように金剛界四仏を安置した荘厳な空間である。</p> <p>また、本尊・薬師三尊像（重文）を祀る金堂（国宝）や、21体の仏像（うち16体が国宝、5体が重文）が弘法大師の密教の教えを表現した立体曼荼羅を形成している講堂（重文）もあわせて拝観いただける。</p>
<p>妙心寺 玉鳳院</p>	<p>～妙心寺発祥の地 戦国武将の供養塔が並ぶ場所～</p> <p>妙心寺は、建武4年（1337）、花園法皇が離宮を禅刹に改め、無相大師（関山慧玄）を開山に迎えたことに始まる京都最大の禅寺。</p> <p>玉鳳院は花園法皇が伽藍の傍に建てた山内最古の塔頭寺院である。檜皮葺屋根の寝殿風の方丈は明暦2年（1656）に建てられたもので、内部は狩野永真（安信）筆と伝わる「麒麟図」「竜図」「山水図」、伝狩野洞雲（益信）筆の「秋草図」など、各室ごとに異なる画題の襖絵で飾られている。方丈の奥には花園法皇の木像を安置する昭堂があり、徳川家康の位牌なども安置されている。</p> <p>また、渡り廊下で結ばれた開山堂「微笑庵」（重文）は、開山・無相大師を祀る妙心寺最古の建物。室町時代中期の見事な唐様建築で、前に据えられた珍しい形の妙心寺型石灯籠や、蘇鉄の木、室町時代に建てられた唐門（重文）もみどころである。蓬萊式の枯山水庭園（史跡・名勝）には、無相大師がその傍らで亡くなったという「風水泉」と呼ばれる井戸がある。また境内には豊臣秀吉の長男・鶴松（葉丸）の御霊屋「祥雲院殿」が建ち、武田信玄・勝頼父子の供養塔、織田信長・信忠父子の供養塔が並んで建つ。</p>	<p>東本願寺 大寝殿・白書院 「京の冬の旅」40年ぶりの公開</p>	<p>～近代和風建築を代表する「お東さん」の非公開文化財～</p> <p>正式には「真宗本廟」、通称「東本願寺」と呼ばれ、京都駅近くに壮大な伽藍を構える真宗大谷派の本山。慶長7年（1602）、第12代教如上人が徳川家康からこの地の寄進を受けて建立した。その後四度にわたって焼失しており、現在の堂宇の多くは明治期に再建されたものである。</p> <p>世界最大級の木造建築である御影堂（重文）の北方、境内の奥まったところに「諸殿」と呼ばれる通常非公開の建物群があり、そのなかから今冬は「大寝殿」「白書院」を拝観することができる。</p> <p>慶応3年（1867）に上棟された大寝殿（国登録有形文化財）は、境内に現存する最古の建物で、公式行事や儀式に使用される諸殿の中心。床の間の壁や襖絵には、京都画壇を代表する日本画家・竹内栖鳳による「竹に雀図」「竹林図」「飛雀図」「喜雀図」「古柳眠鷺図」などが描かれている。</p> <p>来賓の接待などで使用される白書院は、帳台構えや違棚を設けた書院造の「上段の間」が設けられ、建築技師・亀岡末吉らによる独創的な彫刻で飾られた欄間や、幸野楳嶺の子・幸野西湖や森本東閣らの筆による藤や牡丹を中心とした障壁画が美しい。</p>
<p>妙心寺 壽聖院 「京の冬の旅」初公開</p>	<p>～永徳設計の庭園が残る石田三成一族の菩提寺～</p> <p>慶長4年（1599）、石田三成が父・正継の菩提寺として、伯蒲慧稜を院主に迎えて創建した妙心寺の塔頭寺院。創建当時は、堀と土塀をめぐらせた広大な敷地に、金箔瓦を載せた堂宇が建つ石田家京都屋敷ともいうべき壮麗さであったという。翌年の慶長5年（1600）、「関ヶ原の戦い」で三成らが率いる「西軍」は徳川家康らの「東軍」に敗れ、三成の没後壽聖院も解体されたが後に再興された。かつての壽聖院の門が妙心寺北門として現存している。</p> <p>桃山時代を代表する絵師・狩野永徳が設計したという本堂前の庭園は、三成の指示により主君・豊臣秀吉の戦勝の馬印「瓢箪」をモチーフに造られたとも伝わる瓢箪池を中心とした池泉式庭園である。</p> <p>「冬の旅」期間中、石田三成が初代住職に袈裟を送ったときの自筆の書状、三成の長男・濟院宗享（重家）が石田家について記した「霊牌日鑑」、桃山時代の土佐派の筆によるとされる「石田正継像」（重文）の複製や三成の肖像画（模本）など寺宝も展示される。また石田正継・三成父子ほか石田家一族9人の供養塔がある。</p> <p>同じ妙心寺の塔頭寺院・退蔵院が2011年より開始した「退蔵院方丈襖絵プロジェクト」の絵師である村林由貴氏が描いた、本堂と書院の襖絵「稲穂に雀図」「風浪双鯉図」なども見どころである。</p>	<p>醍醐寺 三宝院</p>	<p>～秀吉の栄華を偲ぶ建築美と弥勒菩薩坐像～</p> <p>貞観16年（874）、弘法大師空海の孫弟子にあたる理源大師聖宝が開いた真言宗醍醐派の総本山で、世界文化遺産。山上の「上醍醐」と麓の「下醍醐」に点在する国宝6棟、重文10棟を含む92棟の建造物や、所蔵する彫刻・絵画など密教美術の宝庫である。</p> <p>三宝院は醍醐寺の歴代座主が居住する「本坊」にあたり、現在の建物は豊臣秀吉の「醍醐の花見」の際に整えられた。寝殿造の様式を伝える表書院（国宝）から望む庭園（特別名勝・特別史跡）は秀吉自ら設計したものとされる。織田信長や秀吉など代々天下人が所持した名石「藤戸石」をはじめ豪壮な石組と刈込が配された、桃山時代を代表する池泉式庭園である。</p> <p>特別公開の弥勒堂（重文）には、鎌倉時代初期の快慶作の優美な弥勒菩薩坐像が安置されており、今冬は内陣まで入って拝観ができる。「醍醐の花見」の際の茶屋を移築したものといわれる茅葺屋根の純浄観（重文）は、日本画家・浜田泰介画伯によって描かれた桜や紅葉を描いた襖絵がみどころ。また奥宸殿（重文）の「上段の間」の素朴な意匠の違棚は「醍醐棚」と呼ばれ、桂離宮「桂棚」、修学院離宮「霞棚」とともに「天下の三大名棚」の一つ。今回は特別に、徳川家康ゆかりの寺宝も展示される。</p>

<p>だ い ご じ 醍醐寺</p> <p>り しょういん 理性院</p> <p>「京の冬の旅」 初公開</p>	<p>～探幽18歳の障壁画が残る醍醐寺別格本山～</p> <p>永久3年(1115)、賢覚<small>けんがく</small>によって開創された醍醐寺の塔頭寺院で別格本山。醍醐寺のみならず真言密教の中心的な法流「小野六流<small>おのろくりゅう</small>」の一つに数えられた「理性院流」の根本道場である。</p> <p>江戸時代建立の本堂は、内部が外陣<small>げじん</small>、内陣<small>ないじん</small>、内々陣<small>ないないじん</small>の三室に分かれ、内陣中央の厨子<small>ずし</small>には80年に一度のみ御開帳される秘仏・太元帥明王像<small>たいげんすいみょうおうぞう</small>(非公開)が祀られており、向かって左手には鎌倉時代作の毘沙門天立像<small>びしゃもんてんりゅうぞう</small>が安置されている。また右手に安置された平安時代後期の「不動明王坐像<small>ぶどうみょうおうざぞう</small>」(重文)は像高88.3cmの等身坐像で、忿怒の表情も明王像としては穏やかなどっしりとした量感に富んだ一木造<small>いちぼくづくり</small>の像である。</p> <p>客殿<small>きやくでん</small>「上段の間」の床の間と南壁には、江戸初期を代表する絵師・狩野探幽18歳の頃の作とされる「水墨山水図<small>すいぼくさんすいず</small>」が描かれている。文人の嗜み<small>たしな</small>とされた四芸「琴棋書画<small>しげい きんきしょが</small>」の二場面と考えられる水墨画で、現存する数少ない探幽十代の頃の障壁画として、その画風を知るうえで貴重な絵画である。</p>
--	---

<p>僧侶がご案内する特別拝観 にしほんがんじ 西本願寺</p> <p>しょういん 書院</p>	<p>～国宝・重文の宝庫 華麗なる桃山文化の粋～</p> <p>世界文化遺産に登録されている龍谷山本願寺<small>りゅうこくざんほんがんじ</small>は、「西本願寺」の通称で親しまれる浄土真宗本願寺派の本山。天正19年(1591)、豊臣秀吉が現在の寺地を寄進して伽藍<small>がらん</small>を構え、桃山文化を代表する国宝・重要文化財の建造物が今も多数残されており、今回はその豪壮華麗な文化財の数々を僧侶のご案内で特別に拝観できる。</p> <p>書院(国宝・重文)は、桃山時代の豪壮華麗な書院造を代表する大建築。狩野派や円山派が手がけた美しい金碧障壁画<small>きんぺき</small>や重厚な彫刻で飾られている。203畳敷きの「対面所<small>たいめんじょ</small>」は、欄間<small>らんま</small>に鴻(コウノトリ)の透かし彫りがあることから「鴻の間」とも呼ばれ、その西側には「雀の間<small>すずめ</small>」「雁の間<small>がん</small>」「菊の間」など、意匠を凝らした小部屋が並ぶ。賓客の接待などに使われた「白書院」には、一の間「紫明の間<small>しめい</small>」、二の間、三の間「孔雀の間<small>くじゃく</small>」の絢爛豪華な三室が一行に続く。そのほか「東狭屋の間<small>ひがしきや</small>」の天井画「八方睨みの猫<small>はっほうにらみ</small>」、現存最古で唯一の国宝に指定されている北能舞台、南能舞台(重文)などみどころは多い。</p> <p>また「虎溪の庭<small>こけい</small>」(特別名勝)は、御影堂<small>ごえいどう</small>の大屋根を中国の名山・廬山<small>ろざん</small>に見立てた借景とし、巨石の枯滝<small>かれたき</small>から川の流れが白砂敷きの大海に注ぐ様子を表した桃山文化を代表する枯山水庭園である。</p> <p>さらに浄土真宗を開いた親鸞聖人<small>しんらんしょうにん</small>の木像(御真影<small>ごしんえい</small>)が安置される御影堂(国宝)と本堂に当たる阿弥陀堂<small>あみだどう</small>(国宝)も参拝し、途中僧侶による法話もお聞きいただく。</p>
--	---

<p>僧侶がご案内する特別拝観 ひがしほんがんじ 東本願寺</p> <p>しょうでん 諸殿</p>

<p>～「お東さん」の非公開建築を僧侶のご案内で拝観～</p> <p>通称「東本願寺」で知られる真宗大谷派の本山。明治期に再建された伽藍<small>がらん</small>は、近代和風建築を代表する歴史的価値のあるもので、近年相次いで文化財指定を受けている。今回は通常非公開の諸殿を僧侶のご案内で特別拝観できる。</p> <p>通常非公開の大寝殿<small>おおしんでん</small>(国登録有形文化財)は、竹内栖鳳<small>たけうちせいほう</small>が「竹に雀図」などの障壁画の大作を描いた諸殿の中心。建築技師・亀岡末吉<small>かめおかすえきち</small>らの独創的な彫刻意匠が見事な白書院<small>しろしょいん</small>は、藤を描いた障壁画で飾られている。またその前庭には能舞台が建つ。</p> <p>宗祖・親鸞聖人<small>ごしんねい</small>の御真影を安置する御影堂(重文)と阿弥陀堂<small>あみだどう</small>(重文)の参拝もご案内。御影堂は、正面7.6m、側面5.8m、高さ3.8mの世界最大級の木造建築物で、2019年に国の重要文化財に指定された。また御影堂と同じく明治28年に再建された阿弥陀堂の内陣は、法然<small>ほうねん</small>上人<small>しょうにん</small>をはじめとする聖徳太子<small>しょうとくたいし</small>や七高僧の御影像が掛けられ、天井から柱まで金色で荘厳され『仏説阿弥陀経』の世界が表現されている。</p> <p>※ご案内箇所は一部変更となる場合があります</p>
